



姉妹都市交流親善団 交流体験記 2

学生団員 12 名を中心に構成された三好市姉妹都市交流親善団 16 名が、10 月 25 日から 31 日までの 7 日間、姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ザ・ダルズ市などを訪問しました。先月号に引き続き、中学生団員から寄せられた体験記をご紹介します。

三好市では、国際的視野にたった人材の育成を目的に姉妹都市との間で親善団の相互訪問事業を実施し、貴重な異文化体験の機会を提供しています。

今回の派遣事業も、ホームステイを通じ、ホストファミリーやザ・ダルズ市の人たちと心の通う充実した交流となったようです。



私 はこの体験を通して、たくさんさんのことを学びました。まずは、世界の広さを知ることができました。ホームステイ先から見るマウンテンフードは、テレビや画像で見るよりも壮大で、とても感動的でした。また、外で温水浴場に入ったときの夜景もこの上ない美しさでした。次に、人の優しさに改めて気付くことができました。ダルズ市の皆さんは、私たちを楽しませようと初対面にも関わらず優しく接してくれ、分からないことは詳しく教えてくれました。

一番忘れてはならないのは、たくさんの方々への感謝です。まずは、一緒にアメリカに行ったメンバー。この仲間でなければ、こんなにも楽しく充実した日々にはならなかったと思います。次に、団長や事務局の皆さま。困っている時には声をかけてくれ、相談した時には真剣に話を聞いてくれました。最後に保護者の皆さま。送り迎えや旅行の準備などたくさん迷惑をかけましたが、無事研修を終えることができました。本当にありがとうございました。

(三野中3年 下西志歩)

姉 が、姉妹都市交流でダルズ市に行ったことをきっかけに、2年前の夏、私の家に高校生のジョシユとタイラーがやってきました。その頃の私は小学生で、全然英語を話せませんでした。川で遊んだり、ゲームをしたりするうちに仲良くなりました。その時から、中学校では英語を勉強し、絶対にダルズに行くことと決めていました。そして今回、その夢がかないました。

ダルズでは、知っている単語やジェスチャーを使って伝え、何とかコミュニケーションをとることができました。このことで、私は伝え合うのは言葉だけでなく、心と心なんだと強く感じました。一緒にいる時間は短かったけどジョシユとタイラーに再会できたこと、そして言葉の壁を越えて、いろいろな人たちと交流できたことは、最高の思い出です。帰国してすぐにタイラーから、メッセージと最高の笑顔の写真が届きました。これからも、途絶えることなくアメリカと日本につながっていたいと思います。いつか必ず、ダルズでお世話になった人に行きたいと思っています。

(三野中2年 大北早紀)

初 めての海外は、知らないことをたくさん学び、とてもよい経験となりました。今までアメリカといえば土足のイメージでしたが、ホームステイ先では玄関に入つてすぐに靴を脱いだので意外でした。寝る時間の早さにも驚きました。他の子にも聞くと、やはり八時ごろには「おやすみ」と言われたようでした。また、秋のダルズは朝が明けるのは遅く、日が暮れるのは早く外は薄暗く、寒かったです。

姉妹都市訪問は楽しいことばかりで、日本が恋しく感じた時もありましたが、それを忘れるくらい充実した毎日でした。特に楽しかったのは大学生との交流でした。緊張していて話が出来なくなつたが、フレンドリーで日本語も上手く、話をしているととても楽しかったです。また、この研修を通じて、日本の良さを改めて感じることもできました。外から日本を見てみると普段は気づかないことを発見できました。アメリカの良いところをたくさん見て好きになりました。私はやっぱり日本が大好きなんだと改めて感じました。

(山城中3年 橋本萌香)

ア メリカでのさまざまな体験を終え、学んだことはたくさんありました。まず、やはり文化の違いです。入浴の仕方、ハウインの規模も日本とは違いました。ジャック・オ・ランタンを作るのも、一生にもう一度あるかどうか分からないような、貴重な体験でした。ダルズの町並みも美しく、印象的でした。

ホームステイも楽しい思い出です。昔アニメで見て以来の丸焼きチキンが食べたいという願望も、ホストファミリーがかなえてくれました。想像していたよりも、さっぱりしていて、おいしかったです。一緒にホームステイをした森崎さんが余裕で会話をしていたので、3日間「ミートゥー」のみでいけるのではとひそかに思いつつも、ホストファミリーの人の柄や優しさを知り、自ら話しかけることができました。また、三好市内のたくさんさんの友達と出会え、ともに過ごした1週間はとても楽しい思い出となりました。このような機会を与えて下さった方々に感謝しています。このかけがえない経験を生かせる道を、自分で探していきたいと思っています。

(三野中2年 松本美緒)

姉 妹都市交流に参加し、充実した時間を過ごせました。アメリカの高校や大学へ行ったり、夜のサンフランシスコを歩いたり、とても特別なことをしてきた気持ちでいっぱいです。気付いたこと感じたことはたくさんありますが、特に思ったことは二つあります。一つはホストファミリーがとても優しくしたこと。必死で伝えようとしたら、一生懸命受け取ろうとしてくれ、積極的に日本語を話そうとしてくれたり、ゆつくりと簡単に話してくれたりといつも温かく接してくれました。二つ目は、出国前と帰国後の英語の感じ方が違ったことです。聞き取らなくちゃと思うと余計に分からなくなっていたけど、帰りのサンフランシスコではお土産も菜々と英語で買え、英語の会話は意味が分かることが増えました。

初めて日本を離れて、改めて日本の良さを感じました。また、ダルズ市の人々の温かさも感じました。このような体験ができたのも、家族や引率の方々など、周りの支えがあったからです。体験とともに、感謝の気持ちも忘れられないようにしたいと思います。

(山城中3年 森崎晶子)

初 めてのアメリカでは、日本との文化の違いをさまざまな場面で感じました。家の内装や食事の仕方、外へ出れば建物や街の風景、店内の様子などが日本と違って新鮮でした。また、学校訪問では、日本の学校と違った学年の分け方や授業の時間、1日の日程などは驚きの連続でした。

ホームステイも初めてで、最初は戸惑いや不安がありました。でもホストファミリーの方がとても優しく、困ったことや分からないことがあった時も、優しく教えてくれたので、いつしか不安が安心に変わっていった。ホームステイをして本当に良かったと思いました。僕は、今回の交流で、初めて見る景色や環境を知り、自分の中のものの見方や考え方が増えました。また、英語で話す楽しさや相手に通じた時の喜びや達成感を味わうことができました。もっと英語を学んで使っていきたい、そして自分の世界を広げていきたいと思います。ダルズでの経験を今後の生活、そして将来に生かしていきたいと思っています。決して忘れることのない思い出になりました。

(西祖谷中3年 森本敦也)